

Requested Patent: JP2224053A  
Title: MONITORING SYSTEM FOR INPUT TIME OF TERMINAL ;  
Abstracted Patent: JP2224053 ;  
Publication Date: 1990-09-06 ;  
Inventor(s): TSUKADA EIJI ;  
Applicant(s): NEC CORP ;  
Application Number: JP19890043150 19890227 ;  
Priority Number(s): ;  
IPC Classification: G06F15/00 ;  
Equivalents: ;

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To continue the processing without ending conversation even in the case of a response time becomes longer by setting in advance an operation at the time of a time sharing system TSS command execution program for expediting an input having possibility that the response time becomes longer at the time of exceeding an input time monitoring timer value, and also, restoring it thereafter.

**CONSTITUTION:** An operation change declaring means 12 declares a change of an operation of a TSS command execution program at the time of a response time exceeds an input time monitoring timer value of a terminal, an operation change informing means 13 informs a change of the operation of the TSS command execution program, and an input time monitoring state informing means 14 informs to the TSS command execution program a fact that it exceeds the input time monitoring timer value. A TSS command execution program restarting means 15 restarts the TSS command execution program, and an operation restoration declaring means 16 declares a restoration of the operation of the TSS command execution program at the time of exceeding the input time monitoring timer value. In such a way, even in the case when the response time becomes long, the processing can be continued.

5V692003 0119 451

## ⑫ 公開特許公報(A) 平2-224053

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)9月6日

G 06 F 15/00

3 2 0 L

7361-5B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 端末の入力時間監視方式

⑯ 特 願 平1-43150

⑰ 出 願 平1(1989)2月27日

⑱ 発 明 者 塚 田 英 治 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 山下 稔平

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

端末の入力時間監視方式

## 2. 特許請求の範囲

TSS コマンド実行プログラムの要求信号に応答して応答時間が端末の入力時間監視タイマ値を超過した時の TSS コマンド実行プログラムの動作の変更を宣言する動作変更宣言手段と、

前記動作変更宣言手段の指示により TSS コマンド実行プログラムの動作の変更を通知する動作変更通知手段と、

TSS コマンド実行プログラムに対して入力時間監視タイマ値を超過したことを通知する入力時間監視状態通知手段と、

前記入力時間監視状態通知手段により通知した TSS コマンド実行プログラムを再実行する TSS コマンド実行プログラム再開手段と、

TSS コマンド実行プログラムの要求信号に応答して端末の入力時間監視タイマ値を超過した時の TSS コマンド実行プログラムの動作の復元を宣言

する動作復元宣言手段と、

前記動作復元宣言手段の指示により、

TSS コマンド実行プログラムの動作の復元を通知する動作復元通知手段

とを有していることを特徴とする端末の入力時間監視方式。

## 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、タイムシェアリングシステム(TSS)のもとで端末から TSS のコマンドを用いてソフトウェアの開発や業務等を行う場合における端末の入力時間監視方式に関する。

〔従来の技術〕

一般に TSS コマンド実行プログラムと遠隔地の端末を利用した TSS 利用者との間で会話を行う場合に、TSS コマンド実行プログラムは、端末に対して入力促進を行うようになっている。

TSS コマンド実行プログラムが入力促進を出力してから、それに対する応答を TSS 利用者から受け取るまでの制限時間、すなわち入力時間監視タ

イマ値は、システムで一意的に事前に設定されている。

ところで、従来技術では、TSS コマンド実行プログラムの行い入力促進に対する応答時間が前記一定の入力時間監視タイマ値を超過した場合にはTSS コマンド実行プログラムを強制的に終了させるようにしていた。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかしながら、TSS 利用者が思考時間の長いエディタ等を利用する場合、または分散処理を行うために端末プログラムとの会話を主体とする場合等、TSS コマンド実行プログラムとの会話が少ない場合には、TSS コマンド実行プログラムに対する応答時間が長くなり、入力時間監視タイマ値を超過することが多くなる。これにより、TSS コマンド実行プログラムが強制的に終了すると、エディタ等を使用する端末利用者または分散処理を行う端末利用者とTSS コマンド実行プログラムとの会話が不意に終了するという欠点があった。

本発明は、このような従来の欠点を改善したも

ので、その目的は、応答時間が長くなった場合でも会話を終了させることなく処理を継続させることの可能な端末の入力時間監視方式を提供することにある。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の端末の入力時間監視方式は、TSS コマンド実行プログラムの要求信号に応答して応答時間が端末の入力時間監視タイマ値を超過した時のTSS コマンド実行プログラムの動作の変更を宣言する動作変更宣言手段と、

前記動作変更宣言手段の指示により、

TSS コマンド実行プログラムの動作の変更を通知する動作変更通知手段と、

TSS コマンド実行プログラムに対して入力時間監視タイマ値を超過したことを通知する入力時間監視状態通知手段と、

前記入力時間監視状態通知手段により通知したTSS コマンド実行プログラムを再実行するTSS コマンド実行プログラム再開手段と、TSS コマンド実行プログラムの要求信号に応答して端末の入力

時間監視タイマ値を超過した時のTSS コマンド実行プログラムの動作の復元を宣言する動作復元宣言手段と、

前記動作復元宣言手段の指示によりTSS コマンド実行プログラムの動作の復元を通知する動作復元通知手段

とを有している。

〔作用〕

動作変更宣言手段は、TSS コマンド実行プログラムの要求信号に応答して応答時間が端末の入力時間監視タイマ値を超過した時にTSS コマンド実行プログラムの動作の変更を宣言し、この宣言によって動作変更通知手段はTSS コマンド実行プログラムの動作の変更を通知し、入力時間監視状態通知手段は、TSS コマンド実行プログラムに対して入力時間監視タイマ値を超過したことを通知する。TSS コマンド実行プログラム再開手段は、入力時間監視状態通知手段により通知されたTSS コマンド実行プログラムを再開し、動作復元宣言手段は、TSS コマンド実行プログラムの要求信号に

応答して端末の入力時間監視タイマ値を超過した時のTSS コマンド実行プログラムの動作の復元を宣言する。動作復元通知手段は動作復元宣言手段の指示によりTSS コマンド実行プログラムの動作の復元を通知する。

〔実施例〕

次に本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例を示すブロック図である。

第1図の端末の入力時間監視方式は、TSS コマンド実行プログラム11と、動作変更宣言手段12と、動作変更通知手段13と、入力時間監視状態通知手段14と、TSS コマンド実行プログラム再開手段15と、動作復元宣言手段16と、動作復元通知手段17と、入力時間監視システム18とから構成されている。

このような構成の入力時間監視方式の動作を次に説明する。

TSS コマンド実行プログラムと遠隔地の端末を利用したTSS 利用者との間で会話を行なう場合に、

TSS コマンド実行プログラム 11 は端末に対して入力促進を要求するが、この入力促進によって応答時間が端末の入力時間監視タイマ値を超過する可能性のある場合には、超過した場合にも会話を終了させずに実行再開するため、この入力促進を端末に対して出力する前に、動作変更要求を動作変更宣言手段 12 に対して行う。

動作変更宣言手段 12 は、TSS コマンド実行プログラム 11 から入力時間監視タイマ値超過時の動作変更要求を受けたことを動作変更通知手段 13 に対して通知する。

動作変更通知手段 13 は入力時間監視タイマ値超過時の動作変更を入力時間監視システム 18 に通知する。

入力時間監視システム 18 は入力促進に対する端末からの応答時間が入力時間監視タイマ値を超過した時に、入力促進を行った TSS コマンド実行プログラム 11 が動作変更要求を行ったので実行の再開を入力時間監視状態通知手段 14 に通知する。

に制御を戻す。

〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明は、応答時間が長くなる可能性のある入力促進を行う TSS コマンド実行プログラムが、入力時間監視タイマ値超過時の動作を事前に設定しかつ、事後に復元を行なうようにしているので、入力促進を行う TSS コマンド実行プログラムは、応答時間が長くなった場合であっても終了することなく実行が再開され、再度入力促進を行う等の処理の継続が可能となるといふ効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例を示すブロック図である。

11 … TSS コマンド実行プログラム、12 … 動作変更宣言手段、13 … 動作変更通知手段、14 … 入力時間監視状態通知手段、15 … TSS コマンド実行プログラム再開手段、16 … 動作復元宣言手段、17 … 動作復元通知手段、18 … 入力時間監視システム。

代理人 弁理士 山下 穰 平

入力時間監視状態通知手段 14 は入力促進を行った TSS コマンド実行プログラム 11 に対して応答時間が入力時間監視タイマ値を超過した旨を通知する。

TSS コマンド実行プログラム再開手段 15 は TSS コマンド実行プログラム 11 の行った入力促進要求の次の命令から実行を再開させる。

TSS コマンド実行プログラム 11 は応答時間が長くなる可能性のある入力促進に対する応答を受け取った後に、入力促進に対する応答時間が端末の入力時間監視タイマ値を超過した場合には、会話を終了するために動作復元要求を動作復元宣言手段 16 に対して行う。

動作復元宣言手段 16 は TSS コマンド実行プログラム 11 から入力時間監視タイマ値超過時の動作復元要求を受けたことを動作復元通知手段 17 に対して通知する。

動作復元通知手段 17 は、入力時間監視タイマ値超過時の動作復元を入力時間監視システム 18 に通知した後、TSS コマンド実行プログラム 11

第 1 図

